

授業科目 吃音

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	言語
渡辺 時生		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
吃音の基礎知識を身につける。					
吃音の評価、診断、治療を修得する。					
吃音者の困難や心理を理解し、適切な援助を考える。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】					
1. 吃音の定義、発生、症状など基礎知識について説明できる。					
2. 吃音症状の進展、可変性、重症度について説明できる。					
3. 吃音検査法（日本音声言語医学会版）を実施できる。					
4. 吃音治療の概要について説明し、適切な治療法を選択できる。					
5. 間接的言語訓練について、適応・方法を説明、実施できる。					
6. 直接的言語訓練について、適応・方法を説明、実施できる。					
7. 吃音事例を通じ、実際の治療、援助において必要な事柄を説明できる。					
8. 吃音者のセルフ・グループ活動について理解し、連携を実践できる。					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	吃音の基礎知識、吃音サンプル聴取			1	講義、演習
2	吃音の定義・発生メカニズムなど			1	講義
3	吃音症状分類			1	講義
4	吃音の鑑別・進展段階・重症度など			2	講義
5	吃音の評価・診断・治療の概要			3・4	講義
6	幼児吃音 (1) 評価、診断を中心に			4・5	講義
7	幼児吃音 (2) 環境調整法、遊戯療法			5	講義
8	幼児吃音 (3) 事例研究			5・7	講義
9	学童吃音 (1) 評価、診断、治療の概要			5・6	講義
10	学童吃音 (2) 事例研究			6・7	講義
11	小児（幼児・学童）のまとめ			4	講義
12	成人吃音 (1) 流暢性形成法			6・7	講義
13	成人吃音 (2) 吃音緩和法			6・7	講義
14	吃音セルフヘルプグループについて			7・8	演習・討議
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 （必ず購入する書籍）		言語聴覚療法シリーズ13吃音	都築澄夫編著	建帛社	2000年・2,520円
参考書		吃音の基礎と臨床	バリー・ギター著	学苑社	2007年・7,980円
		コミュニケーション障害の臨床(2)	日本聴能言語士協会	協同医書出版	2001年・3,150円
その他の資料		適宜配布			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
期末試験					